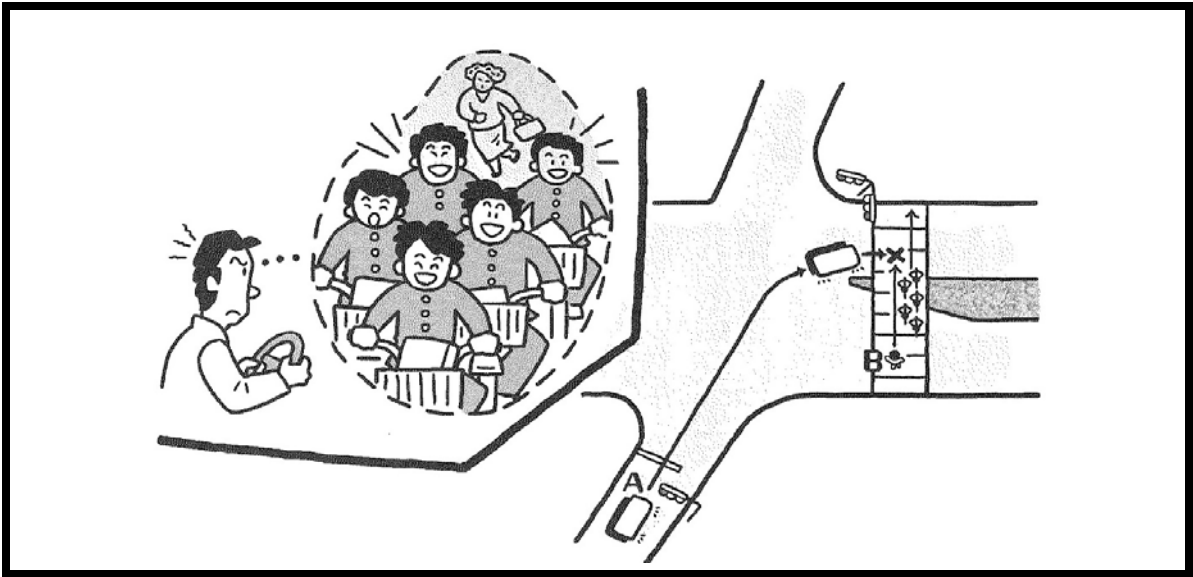


■事故の概況



事故類型：人対車両 横断歩道横断中

当事者A：軽貨物車 20歳代 男性

当事者B：歩行者 50歳代 女性

■ 事故の概要

Aは、いつも通り慣れている交差点を右折しようと信号待ちをしていました。

この交差点の近所には学校があり、Aはここを通るたびに、ルールを無視して我が物顔で通行していく自転車が非常に気になっていました。

信号が青に変わり、A車はゆっくりと進行し、横断歩道手前で停止しました。やはり今日も自転車に乗った学生たちが、横断歩道を通りしてくるのを発見しました。気を付けなくてはならないと自転車に注意を集中していました。

数台の自転車が通り過ぎたので、A車を進行させたところ、その後ろから駆け足で来たBと衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

運転するときは「運転に集中すること」と「平常心を保つこと」が大切です。運転以外のことを考えて運転していると反応が遅くなったり状況判断を誤ったりします。また、過度に興奮すると注意力にムラがでけたり、また、時には運転が乱暴になったりします。

横断歩道付近では、特に歩行者や自転車に注意を払うなど、走行している場所について、“起きやすい事故の種類”を想像しておくことも重要です。

特に運転を職業としている方の場合には運転する距離や時間が長くなりますが、このような意識をもつことによって注意が散漫になることをある程度防げるのではないのでしょうか？

また、この事故の場合、責められるべきはA車ですが、Bが横断歩道を渡るときにももう少しA車の動静に注意を払っていたら、事故にあうこともなかったのかもしれない。